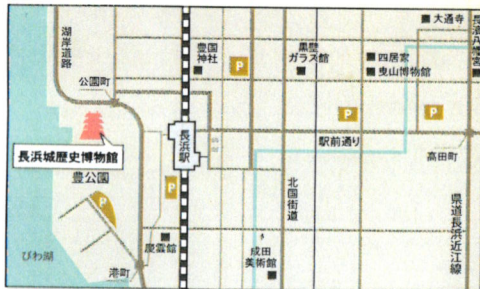


ごあんない

入館料 個人／大人(高校生以上) 400円 団体／大人(高校生以上) 320円  
小・中学生 200円 小・中学生 160円  
※団体は20名以上です。

館内での写真・映像撮影・録音や飲食は、ご遠慮ください。また、館内は禁煙です。  
特別展・企画展開催中は常設展をご覧いただけませんので、ご了承ください。



〒526-0065 滋賀県長浜市公園町10-10  
TEL 0749-63-4611 / FAX 0749-63-4613  
MAIL [rekihaku@city.nagahama.lg.jp](mailto:rekihaku@city.nagahama.lg.jp)  
URL <http://www.city.nagahama.shiga.jp/s>



# 長 浜 城

## 秀吉の長浜築城

天正元年(1573)9月浅井長政滅亡後、湖北(滋賀県の北部)を支配したのは、羽柴(豊臣)秀吉であった。姉川合戦と小谷城攻めで手柄をあげた秀吉は、その功績によって浅井氏の領国の大部分を与えられ小谷城に入った。そして翌天正2年夏にはすでに今浜(長浜市公園町附近)に築城を開始している。秀吉が湖岸に城を移した理由は、琵琶湖の舟運を重視した領国経営にあったと考えられる。秀吉の築城については、当時の絵図や古文書がほとんど伝来せず、不明な部分が多い。材木は竹生島などから運んできたことや、石垣用の石材は領内から集められ、石仏や五輪塔などの墓石まで使用されたと考えられている。長浜城は天正5年(1577)頃に完成したと考えられ、秀吉は地名を「長浜」と改めて天正10年(1582)まで在城した。

## 長浜城その後

長浜城は天正10年(1582)には清州会議で柴田勝家に譲られ、勝家の甥勝豊が入城したが、はやくもその年の12月、秀吉は勝豊を攻めて、翌年4月に行われた柴田勝家との賤ヶ岳合戦に際しては、その軍事拠点としている。

天正13年(1585)から18年(1590)まで山内一豊が城主となり、その移封後は次第に荒廃し、湖北真宗門徒の惣会所が城内に設けられたともいう。この時期湖北は、佐和山城主石田三成(長浜市石田町出身)の支配下に入っている。

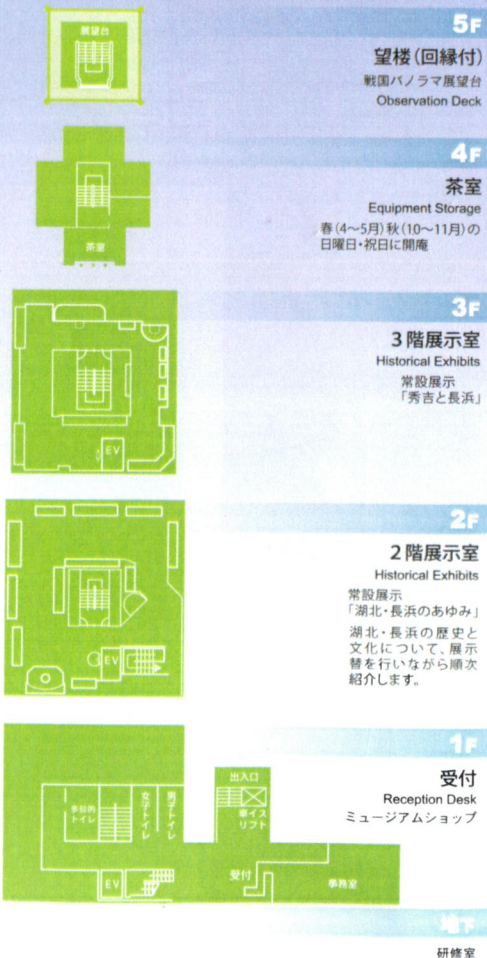
慶長11年(1606)には、徳川家康の異母弟内藤信成が城主となり大修築を行う。慶長17年(1612)その子信正が城主となるが、元和元年(1615)摂津高槻城への移封によって、長浜城は湖北支配の役割を産根城に譲りその使命を終えた。

廃城後、石垣・櫓材は産根城などに運ばれ、長浜城は完全に失われた。長浜大通寺台所門や知善院表門(いずれも市指定文化財)などはその遺構と伝えられる。

## 昭和の長浜城築城

現在の長浜城は、故東京工業大学名誉教授岡田工学博士の設計指導により、昭和58年(1983)に再興され、市立長浜城歴史博物館として開館。本館の外観は、2層の大屋根に望楼をのせた初期天守の様式で、「秀吉の長浜城」を再興しようという市民の熱望によって天正期の城郭を想定し建築されている。平成18年(2006)2月、館名が長浜市長浜城歴史博物館と改まった。

# 館内のご案内



## 秀吉と長浜 3階展示室

湖北は、室町時代から安土桃山時代にかけて、織田信長、豊臣秀吉の天下統一への戦いのなかに登きこまれていきました。とくに長浜は、秀吉が一国一城の主となった最初の拠点であり、彼の城下町経営の基本パターンを醸成したところでもあります。



賤ヶ岳合戦図屏風(右要部分) 秀吉本陣

## 湖北・長浜のあゆみ 2階展示室

湖北・長浜の歴史と文化について、その一部を紹介します。

## 湖北のあけぼの

湖北地域は、古くから様々な生活相を示しながら、生成・発展してきました。山麓や低地では、すでに縄文時代から人々の暮らしぶりを示す遺物が確認されています。

## 信仰と宗教文化

奈良時代から安土桃山時代にかけて、湖北の人々は様々な仏教信仰を受容し、自然への信仰や氏神を中心とする土着の神祇信仰などのまじわりのなかで、質・量ともに豊富な湖北の宗教文化がつくりだされました。

## 浅井三代と湖北

浅井氏は、もともと守護大名京極氏の家臣でしたが、大永3年(1523)以来、京極氏の内紛に乗じて台頭し、湖北の戦国大名となりました。小谷城を居城とし、その後亮政・久政・長政と三代にわたり、政権を維持しますが、元亀元年(1570)の姉川合戦に敗北。その3年後には織田信長の総攻撃に会い滅亡しました。

※2階展示室は、展示替を行って順次紹介していきますので必ずしも上記のテーマが展示されているとは限りません。

長浜城築城ジオラマ



## 遠州・美の世界

安土桃山時代から江戸時代は、海北友松や小堀遠州など湖北出身者が「中央」でその才能を開花させた時期であり、また江戸時代中期以降の発展する長浜町とその周辺地域で庶民文化を育んできた時期でもありました。



小堀遠州像

## 国友鉄砲鍛冶と科学者・一貫倉



反射望遠鏡(国友一貫倉製作)

国友鉄砲鍛冶集団は、近世の胎動過程で堺と並ぶ火縄銃の二大生産地の一つとして重要な役割をない、湖北をクローズアップさせました。また、国友鍛冶師でありながら日本で初めて反射望遠鏡を作り、月面や太陽黒点の観測を行った江戸後期の国友一貫倉は、高く評価されています。

## 近代化のあゆみ

明治維新をむかえた長浜は、織物工業でたくわえられた経済力によって、いち早く近代化のあゆみをはしました。

明治4年(1871)には県下初の小学校が創立され、明治10年には国立銀行が設けられました。明治15年に鉄道が開通し、さらにそれにともなって琵琶湖を鉄道連絡船が運航することにより、長浜は近代交通の要所となりました。郡役所や郵便局などの近代的な公共施設もあいついで整備され、長浜はめざましい変貌を undergone しました。



近江長浜 共同運搬会社引き札